

医療ルネサンス

No.4163

「17年間で動かせるようになるとは思いませんでした。山口県下関市の主婦村田美智子(48)は、トントんと、キュウリを薄切りしながら、そう語る。包丁を握る右腕の首首周辺には、傷跡が一周している。

この傷ができたのは7年前。ゴミ処理場でパート職員として働いていた時、缶をつぶす機械のふたに、誤って右手首を挟まれた。再びふたが上がったとき、手首から先が完全に切断されていた。

気が失ってもおかしくない状況だが、村田さんは気丈だった。「つながらなくてもいい」。救急車を呼んでもらう、切断された手はビニール袋に入れ、外から氷で冷やした。

近くの病院に運ばれ、処置を受けた後、山口市の小郡第一総合病院に転送された。

病院の実力 手の外科

5



包丁を持ち、きゅうりを薄く切れるほど、右手が動くようになった村田美智子さん

切断 顕微鏡手術で縫合

れた。同病院は、切断した指や腕の接着手術の経験が豊富だからだ。事故は夕方だったが、手術が始まったのは午後8時すぎ。整形外科部長の服部泰典さんが行った。

骨は金属プレートで固定するが、高度な技術が必要なのは、断裂した血管や神経や腱を縫い合わせる作業

だ。マイクロサージャリーと言われ、顕微鏡を見ながら行う。動脈3本、静脈2本、手指につながる神経2本、腱は約20本を縫い合わせる。整形外科部長の服部泰典さんが行った。

血管は直径1ミリ前後。これを0.01ミリのナイロン糸で8〜12針縫い合わせるなど細かい作業が必要で、手術が終了したのは午前5時すぎだった。

目を覚まし、手首がつかない。指が動くことがわかった。村田さんは「ほっとした」が、手を使えるようになるまでには時間がかかった。

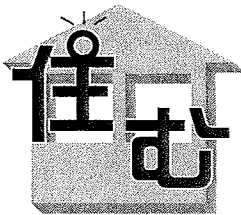
最初は、指先が少し動く程度だったが、1年で鍋が握れるくらいになった。微妙な感覚の鈍さがあり、複雑な指の動きは難しいが、炊き、洗濯などはこなせるようになった。

- 切断された指の運び方
- ①切断された指を清潔なガーゼで包み、ビニール袋に入れる
 - ②もう1枚のビニール袋に氷を入れる
 - ③①のビニール袋を氷の入ったビニール袋の中に入れる。
- ※切断された指に直接氷を当てたり、ドライアイスで冷やすのは、凍傷を招く恐れがあるので、やってはいけない。(土井一輝さんによる)

毎日、家事で両手を使う村田さんは「7年たった今でも少しずつ回復している」と感じる。切れた指や腕の接着自体は、切断の状態や医師の技術にも左右されるが、神経は、1年以上経ても回復することがあるという。

同院長(整形外科)の土井一輝さんは「医師の技量はもちろん重要だが、機能回復は、リハビリの効果も大きい」と語っている。

ご意見・情報を 〒100-8055 読売新聞東京本社医療情報部 FAX03(3217)8985 iryou@yomiuri.comへ

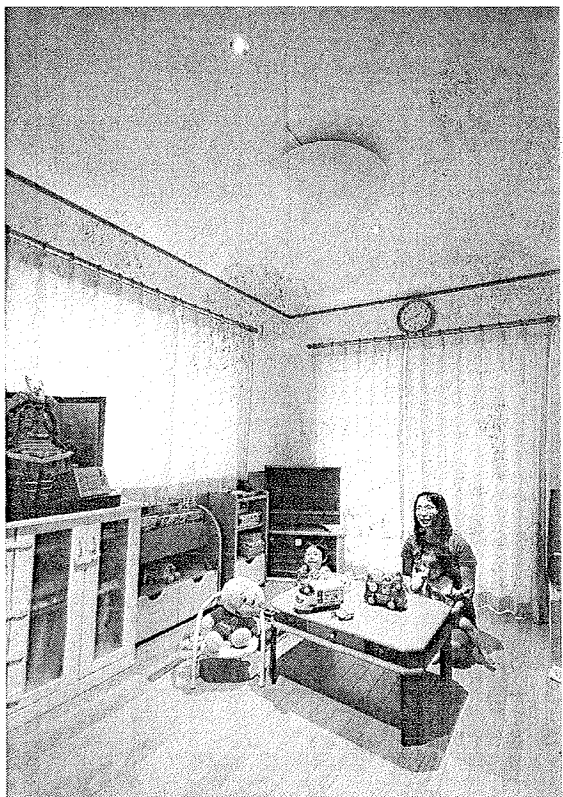


光ファイバーや特殊な鏡を使い、太陽光を室内に導くシステムが登場している。住宅密集地で日中でも室内が暗いといった悩みの解消に役立つ。照明器具と違い、電気をほとんど使わないため、省エネにつながる利点もあつた。

会社員小山忠博さん(39)は今年2月、東京都足立区内の木造2階建ての建売住宅を購入した。入居すると、南側に隣接するアパートに日光を遮られ、1階の居間や台所が予想外に暗かった。それまではマンションの4階の東南の角に住んでいたため、なおさら暗く感じたという。

直射日光 当たらなくても

太陽光集め 明るい室内



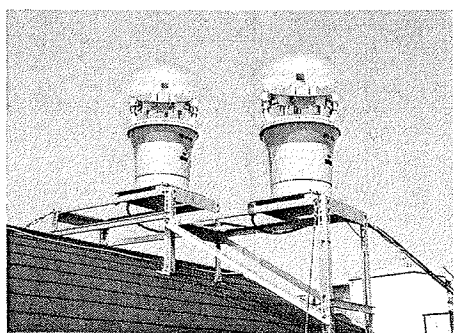
▲天井の2か所の照射器具から広がる太陽光。カーテンを開け照明を消しても、室内は明るい
◀屋根の上に設置された「ひまわり」の集光機
=東京都足立区の小山さん宅で、西内高志撮影

この太陽光採光システム「ひまわり」は、ラフォーレエンジニアリング(東京)という会社が製造、販売している。屋根などに設置した集光機が太陽光をレンズで集めて、光ファイバーケーブルで室内に導く。太陽光は天井の照射器具から58度の範囲で広がる。集光機はセンサーやコンピュータプログラムなどを使って随時、太陽の方を向くようにしているという。

レンズが12枚の標準タイプだと、2か所の照射器具で6畳の部屋全体を明るくできる。1台100万円前後。年間200〜300軒に設置され、1軒に付

に、この光ファイバーを使う方式と、鏡を使う方式の二つに大別される。テクノネット(東京)が製造、販売している「ナチュラル」は、反射率の高いアルミ製の鏡を屋外に

光システム協議会(東京)の事務局長 古坂幸幸さんは「人工の照明と違い、自然光であるため、昼間は白色に近く、夕方になると赤みを帯びるといった表情がある。自然を体感できるのも利点です」と話している。



光ファイバーや鏡で導く

太陽光採光システムの場合、レンズや鏡を覆うアクリル製のカバーに工夫をして、紫外線を大幅にカットするようになっている。また、太陽光を追尾するコンピュータにかかる電気代は月数100程度。消費電力は照明器具より少なく、省エネにもつながる。ただ、太陽光そのもののような暖かさはない。

メーカーで作る「太陽光採光システム協議会」(東京)の事務局長 古坂幸幸さんは「鳥取県米子市」で建てた専用業者が家づくりに関わったプロセスを紹介。取材や執筆は、同システムを取り入れている設計事務所の1級建築士が行った。800円(税別)。

動で太陽の方を向くようになっている。
家のあかり 及川 祐佳
夜 遠くの家があかりが 黄色くぼやけて光っていました きれいだねとさみしそう 一つの家だけ光っていました なんて光っていたのか 不思議です (横浜市・名瀬小5年)

オープンシステム 家づくりの紹介誌 工務店やハウスメーカーを通さない「オープンシステム」による家づくりを紹介する季刊誌「イエイト」写真が創刊された。

同システムは、建て主が設計事務所と協力して、直接、電気、水道などの専門業者と契約を結ぶことで、価格などの透明性が高まる利点がある。全国約200の設計事務所が導入しており、年間約400棟が建てられている。